2018.1.1 / NO.2

ミツイパブリッシング
ニュース2018

MP NEWS 2018

戌賀正

新春のご挨拶を申しあげます。
本年もよろしくお願いいたします。

2013年にスタートしたミツイパブリッシングも今年で5年目を迎えます。「小さな声を、カタチにします。」をモットーに、今年も本作りに専心して参りたいと思います。
皆様の応援とご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いします。

新刊『家で生まれて家で死ぬ』
ゆたかな生と死を取り戻すために

1年前の2016年12月。津田塾大学小平キャンパスで、シンポジウム「東京多摩地域からはじまる　家で生まれて家で死ぬ」が開催されました。コーディネーターは津田塾大学教授・三砂ちづるさん。最初に登壇したのは東京国分寺市にある矢島助産院院長、矢島床子さん。開業以来5000人以上の赤ちゃんをとりあげ、テレビや女性誌でも紹介される、日本を代表する開業助産師です。矢島さんの「お産は気持ちいいもの」というお話は、一度聞いたら忘れられない、ある意味、衝撃的な内容です。

二人目の登壇者は国立市の新田クリニック院長、新田國夫さん。25年前から「看取りの文化」を考えてきた、日本における在宅医療の先駆者です。「2030年には死亡者の多数を85歳以上が占める。病院のあり方も変わらざるを得ない」という新田医師の指摘は、近い将来、日本国内で人生を終えるであろう私たち一人一人が当事者として、真剣に考える必要があるのではないでしょうか。

三人目には、国立市の谷保で「森のようちえん」を運営する佐藤有里さんが登壇。佐藤さんは自宅出産した5子の子育て真っ最中。そしてこの日の約1カ月前に、新田医師のサポートで、義父を看取ったばかりでした。

最後に三砂さんが、同じく新田医師のもと、末期がんの夫を自宅で看取った体験談を話しました。三砂さんは『死にゆく人のかたわらで　ガンの夫を家で看取った二年二カ月』〔幻冬舎刊〕も上梓しています。

シンポジウムは有志による手作りで、ほとんど宣伝しなかったにもかかわらず、研究者や医療関係者、学生などで会場は一杯。後半のパネルディスカッションでの意義深いやりとりも、本書に収録しています。終了後の打ち上げまで、たいへんな熱気だったそうです。

そのシンポジウムを1冊にまとめたのが、昨年11月刊行の『家で生まれて家で死ぬ』。超高齢化社会を迎え、「人生の最終段階」は在宅の方向へ、すでに舵は切られています。一方、助産院や自宅出産は減少の一途ですが、確信をもって選択する女性が一定層いるのも事実。

どこで死にたいか、どこで産みたいか？　だれにとっても人生最大のイベントについて、改めて考えるきっかけになる一冊です。

定価 1200円＋税

スウェーデン大使館主催「海の豊かさを守ろう」ビデオコンテスト
「お魚と殿さま」（森下みかん原作）が優秀賞！

2016年12月に刊行された「天国への列車」所収の「お魚と殿さま」を動画作品にして、スウェーデン大使館主催の「海の豊かさを守ろう」ビデオコンテストに応募したところ、優秀賞を受賞しました。授賞式は2017年4月、スウェーデン大使館公邸で行われ、ミツイパブリッシング代表の中野葉子が出席。ビクトリア皇太子同席のフィーカ（スウェーデンのお茶会）は心温まる素敵な時間となりました。

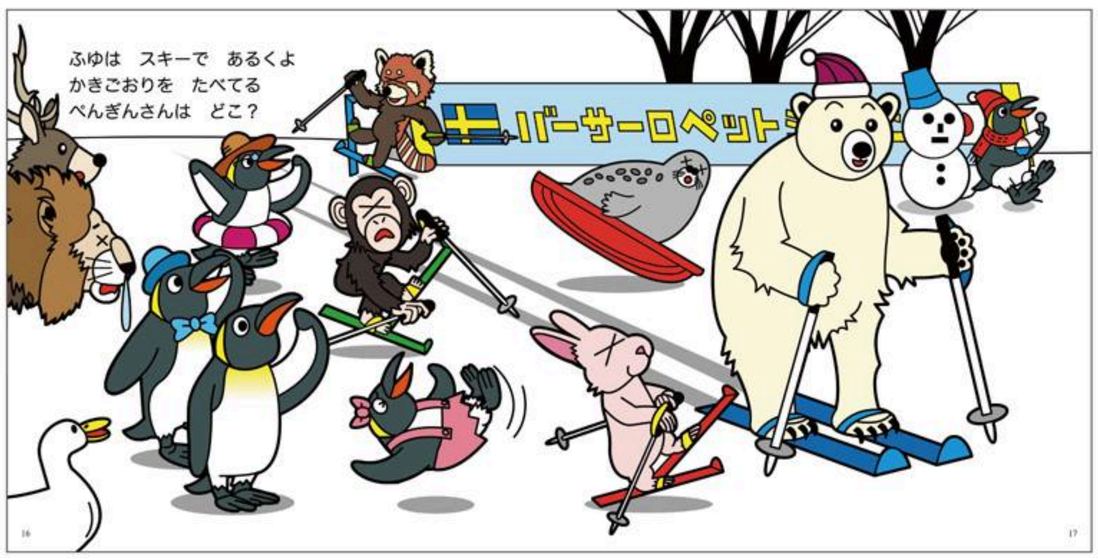
定価 1200 円＋税

◀優秀賞受賞作品のワンシーン。「お魚と殿さま」で検索するとYouTubeでご覧になれます。

北海道旭川市のご当地赤ちゃん絵本が新生児2400人に配られました

ミツイパブリッシングのある北海道旭川市では、毎年2000人を超える赤ちゃんが誕生します。旭川市は「うぶごえへの贈りもの」と題して、新生児に絵本を贈るプロジェクトを続けています。三井ヤスシ作『みーつけた！』は、このプロジェクトから生まれたオリジナルの赤ちゃん絵本。動物園のペンギンくんを主人公に、メリハリある旭川の四季と、地元の名所が描かれます。冬の場面は、クロスカントリーと歩くスキーの国際大会「バーサーロペット・ジャパン」に動物たちが挑戦する様子。これはスウェーデン発の大会ですが、今年はそのスウェーデンと国交150周年でもあります。スウェーデンとの交流を推進する近刊のご案内は裏面でどうぞ！

定価 1000 円＋税



「〈自分がきらい〉から〈自分がすき〉になる相談室」MPニュース特別版

“自分が好き”になる２つの方法　安積遊歩

「遊歩と宇宙の〈自分がきらい〉から〈自分がすき〉になる相談室」はミツイパブリッシングHPでお読みいただけます。

ウェブで好評連載中の人生相談から特別編集版をご紹介。回答者の安積遊歩さんは、ピアカウンセリングの第一人者。車いすで世界を飛び回り、日々、人々をエンパワメントしています。

障がいを持つわたし自身を好きになるための、二つの努力をご紹介します。一つは、障がいゆえのハンディキャップを解消するために、動きつづけること。車いすを取得したり、駅にエレベーターをつける取り組みなどです。ハンディキャップをそのままにしておく社会は「差別社会」なのだと意識して、行動する努力です。二つ目の努力は、自分を愛し、自分を肯定することをさまたげる、さまざまな感情に向き合い続けること。ちょっとむずかしいかもしれませんね。

私も、生きることはつらいことの連続だなあと感じることがよくあります。どんなに行動しても変わらない、つらい現実はたくさんあります。そんなときも、語ることを続けています。涙もがまんしないで、たくさん流します。

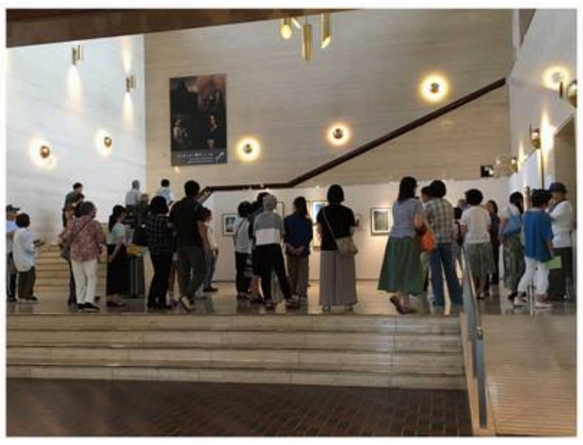
私は、自分の涙も人の涙も、最高の友だちだと思っています。障がいを気にして積極的になれないとき、人と仲良くしたいのにうまくいかないときは、泣きたいだけ泣いてください。泣いたら気にしなくなるとか、人と仲良くできるとか、そういうことではありません。涙が流れるときには、必ず理由があるものです。その理由を、泣きながら感じ、見極めていくことが大切です。たくさん泣く時間を自分にあげることは、その理由を整理し、自分をゆるし、自分を愛しつづけることの原動力となります。そして一歩、二歩と前に進んでいくことができます。

自己否定感もまた、私たちのせいではありません。あまりにつらいときは、空を見てください。どんなに厚い雲の向こうにも、太陽はいつも光り輝いています。風や光は、動かない木にも少しは動き回れる私たちにも、公平に愛を注いでくれます。そうした自然に包まれている自分に、気づいてあげてください。あなたはこの自然、そして社会という人との関係の中でも、かけがえのない大切な人であるということを、自分自身に言ってあげられる時間があると、素敵です。どうぞこれからは、二つの努力に少しずつ乗り出してくださいますように。必要ならまたお声をかけてください。

MITSUI MUSEUM

山梨県立美術館で三井ヤスシ展

2017年5月30日～7月16日、若手中堅を紹介する特別展「キュレーターズ・アイ　三井ヤスシ展」が山梨県立美術館で開催されました。三井ヤスシはミツイパブリッシングのロゴやイメージ・イラストなどを担当していますが、オリジナル作品も多数発表しています。展示では来場者がじっくりと絵を鑑賞し、長時間滞在する様子に学芸員から驚きの感想も。年の始めに、あなたの周りの“近すぎて見えないもの”を探してみてはいかがでしょうか？



▲7月16日に行われたアーティストトークの模様。大変な暑さの中、多くの方にご参加いただきました。

「近すぎて見えないもの」

病気をしたり、怪我をしたり、窮地に追いやられた時に、いつも近くで支えてくれる存在の有り難さに気づく。「愛」とは、いつも近くにあるのに、日常なかなか感じられないものである、という想いを描いた作品。

スウェーデン・日本国交150年！

『スウェーデンの教育（仮）』2018年3月刊行予定

2018年、日本とスウェーデンは国交150周年を迎えます。スウェーデンは北欧の日本とも呼ばれ、高福祉や男女平等、高いイノベーション力、近年では投票率80％などで、国際的にも注目を集める国の一つ。ミツイパブリッシングでは、そのスウェーデン人を育てた「教育」とは一体どんな教育なの？という視点から、教育をテーマにした新刊を現在編集中。

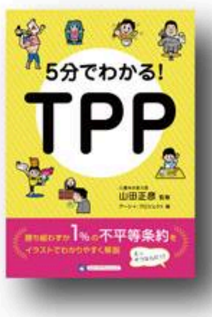
執筆陣は国内きってのスウェーデン研究者からスウェーデンで勤務中の教師まで、これ以上ない豪華な方々。就学前からの起業家精神教育、五感を使うアウトドア教育、障がい児向けだけじゃないインクルーシブ教育、デモクラシーを子どもから学ぶ主権者教育、近年話題のリカレント教育を含む生涯学習など、日本でも関心の高い話題が満載。1月中旬、ミツイパブリッシングのウェブサイトで告知開始予定です！

既刊

父の約束
本当のフクシマの話をしよう
定価５００円＋税

福音ソフトボール
山梨ダルクの回復記
定価１３００円＋税

氷点さんぽ
定価３５０円＋税



5分でわかる！ＴＰＰ
定価３００円＋税

宮内婦貴子シナリオ作品集
桜　散る日に
出陣学徒の交響楽
“第九”歓喜の歌
定価１８５０円＋税

●ミツイパブリッシングの本はお近くの書店（トランスビュー扱い）、Amazon、Yahoo!ショッピングでご注文いただけます。
詳しくは mitsui-publishing.com で！

ミツイパブリッシング
〒078-8237 北海道旭川市豊岡7条4丁目4-8 トヨオカ7・4ビル 3F-1
TEL 050-3566-8445　FAX 0166-73-7103